

審査の結果の要旨

論文提出者氏名：井川理

井川理氏の「戦間期日本の探偵小説ジャンルの生成と受容——犯罪をめぐるメディア言説との相互連関を中心に——」は、「探偵小説」というジャンルの生成と受容の過程について、これを同時代ジャーナリズムとの相互的な関係のなかで総合的、多角的に検証するものである。地道な一次資料の調査に基づいた、軸足のしっかりとした、読み応えのある完成度の高い論文として、審査員全員より高い評価を得た。分析の中心に据えられた日本の戦間期を代表する長編探偵小説6編については、ジャンル形成とのかかわりという観点から作品の選択に根拠があり、テキストを丹念に読み進めながら議論を進めていく手つきは周到で、情報量が豊かであるだけでなく、文学の生成をジャーナリズムとの動的な関係において考察する点において文学批評の新たな可能性を提示するものであり、着眼点の独創性においても高く評価された。

なお、分析対象となっている作品の同時代メディア言説とのかかわり方が多様な様相を示しているため、作品の考察へのアプローチが自ずと異なり、章と章の間の論考のスタイルが統一感を欠いている印象を与えること、個別の議論において結論がやや曖昧である箇所が残っていること、また「本格」「変格」といった用語の使用に様々なぶれが含まれていたことが不明瞭なままになっていることなど、論述の仕方にもう少し工夫があってもよかつたのではないかという指摘もあったが、いずれも本論文の総合的な価値を損なうものではなく、本研究をさらに発展させ、また今後この研究の成果を書籍として刊行するための建設的な発言として受けとめられるものであった。

本論文が、探偵小説のジャンル研究の域にとどまらず、日本近代文学研究及び戦間期日本のメディア研究の進展に貢献する知見を多く含んでいることは審査員の意見の一致するところであり、よって審査委員会はこれを博士(学術)の学位を授与するにふさわしいものであると認定した。